

別記様式

会 議 録

会議の名称	平成30年度第3回戸田市外部評価委員会 (施策55 治水機能の向上)
開催日時	平成30年10月5日(金) 14時20分 ~ 15時30分
開催場所	本庁舎階 505会議室
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 市ヶ谷 和親 委員 谷口 光弘 委員 西内 恵美子 委員 石田 美枝
欠席者氏名	無し
説明のため 出席した者	都市整備部 次長 金子 泰久 道路河川課 課長 熊木 智洋 道路河川課 副主幹 内藤 祐一 土地区画整理事務所 担当課長 中村 康夫
事務局	総務部 秋元次長 経営企画課 山本主幹 石川副主幹 財政課 桑原主任
議 題	1 開会 2 外部評価委員紹介 3 対象部局紹介 4 外部評価ヒアリング 5 閉会
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	・平成30年度施策評価シート ・平成30年度事務事業評価シート

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>1 開 会</p> <p>2 外部評価委員紹介 各委員の紹介を行った。</p> <p>3 対象部局紹介 評価対象部局の紹介を行った。</p> <p>4 外部評価ヒアリング</p> <p>○概要説明 担当部局から概要説明を行った。</p> <p>○事務事業の妥当性 施策の中心事業としては、上戸田川が中心となっている。なぜ上戸田川が中心なのか。</p> <p>担当者 上戸田川は、準用河川であり、河川法上の河川となっているものである。一方、さくら川は、現在は都市河川としての役割をもっているが、以前は農業用の排水路として利用されていたものである。したがって、河川法で定められている上戸田川の整備を中心に行っているものである。</p> <p>委 員 過去の進捗を見ると、上戸田川の整備を中心として掲げているにも関わらず、整備が進んでいない年があるが、これはなぜか。</p> <p>担当者 整備率としての数値は止まっているが、上戸田川は区画整理地内の用地が必要となり、平成27年度、28年度は用地交渉を中心に行ったことによるものである。その結果、平成29年度に護岸整備は進み、整備事業が停滞したわけではない。</p>

委員	先日発生した豪雨との関連は何かあるか。
担当者	先日の雨は 100mm/h の雨量であった。道路排水は 50mm/h で整備しているため、排水が追い付かないことがあるが、今回は、短時間であったため全体的に道路の排水しきれなかった水が引くのが早かった印象である。ただ、上戸田川が未整備である上流については、引くのが遅かった現状である。
委員長	この間も、戸田市内で冠水があったと思うが、これは、河川改修整備が進むと冠水はなくなるという理解でいいのか。
担当者	区画整理内は農業用水路しか存在しないのが現状である。上戸田川の整備については暫定整備で 30mm/h までの排水しか対応していない。この点は、県による河川整備の進捗とも関係しており、放流先となる県の河川である菖蒲川は 50mm/h 対応が進んでいないので、県から規制を受けているのが現実である。なお、県においては、県内でまだ 30mm/h 対応もできていないような河川があり、そちらを優先している。県が 50mm/h 対応できるようになった場合に備えて、現在整備している箇所は 50mm/h 対応で整備しているが、規制の関係上河床を高くし、30mm/h 対応で整備している状況である。
委員	平成 29 年度に、上戸田川とさくら川の整備に使った金額は、いくらであったのか。また、それぞれの配分金額の根拠、使途の根拠は。
担当者	上戸田川が約 1 億 5,000 万円、さくら川が約 1 億 1,000 万円である。なお、事業費の根拠としては、区画整理事業の進捗状況に左右されるものである。平成 29 年度は、工事がメインであったが、そうでない年度もある。
委員長	施策において、治水機能だけではなく、全く違う観点の親水機能も掲げているが、本当に両立できるのか。
担当者	戸田市のような都市部においては、水に親しむ環境の整備という観点も、重要な部分であると認識している。そのうえで、雨に対応できる整備を行っ

	<p>ている。</p>
委員長	<p>治水という概念は幅広い内容であり、集中豪雨があれば、例えば下水道などにも関連する。担当者としては、どのようにお考えか。</p>
担当者	<p>総合振興計画の施策番号63において、「公共下水道の普及促進」という施策があるが、この中で、床上浸水を防ぐなど、下水道という観点から、治水に関する事業を実施している。それぞれの施策で進めているのが現状である。本来は連携すべきと感じている。</p>
委員長	<p>施策評価シート上に、道路河川課の事業だけがラインナップされているが、実は他の部署でも、浸水に係る事業は展開されている。今後は再掲という形とかで示せば、連携しているということが示せると思う。目指すべき方向は一緒であると感じる。</p>
担当者	<p>近年の集中豪雨などからも、各課の連携は必須であると感じている。今後新たな総合振興計画を策定する際は、検討したい。</p>
委員	<p>戸田市民としては、やはり水害には敏感になっている。冠水をすぐになくして欲しいと考えている。先の説明では、河川や下水道などについて、県や国と一緒に進めるということだが、例えば、雨量の対応量が現状より増えることが分かれば、それがいつごろを目途に実施するというを示してほしいが、どうか。</p>
担当者	<p>確かに、担当としては、示すことができるといいと思う。しかしながら、例えば上戸田川の整備を進めるだけでも、地権者との数多くの折衝を経て進めなければならないものであり、いつ頃対応できるものか不透明な状況となっているのが現状である。もちろん、整備が進み、対応状況についての見込みが示せるようになれば、示すべきである。市民の方は不安に感じていると思うので、それを払しょくできればと考えている。</p> <p>○施策の進捗状況</p>

委員	<p>施策を進める上では、地権者の方とのやり取りが必須であると思う。状況は、どのようになっているのか。</p>
担当者	<p>施策を進める上で、河川整備は下流から進めなければならないという前提がある。現状としては、地権者の方との折衝はおおむね順調に進んでいる。しかしながら、当然施策を進めるための予算措置がされなければ、用地確保は進まない状況である。また、現状としては、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、工事に係る費用も高騰している。担当としては、予算や人員を増加して、治水対策を加速化したいとは考えている。</p>
委員	<p>現状として、工事単価が高騰しているということであるが、あえて高騰している時期に、市がコストをかけて事業を進めるべきものなのか。</p>
担当者	<p>施策として、市が進めている状況であり、それを止めるということは難しい。また、工事単価がオリンピック後に下落するとも限らないと考えている。</p>
委員長	<p>事業評価シートにおいて、河川維持管理費のところ、「ポンプ施設」という記載があるが、これは下水道への排水用のポンプということか。</p>
担当者	<p>下水用の排水ポンプとは違う、水路用のポンプである。</p>
委員	<p>○資源の方向性について</p> <p>河川を維持管理する課においては、国や県で管轄している川を除くと、すべて市が管理していると思う。管理の中では、様々なメンテナンス作業が生じると思う。つまり、新規整備だけではない、補修することで発生するコストもあると思うが、その見込み額はどのようになっているのか。</p>
担当者	<p>戸田市として管理している河川は、3つの河川があるが、その中では、修繕をするまでの段階に至っていないのが現状であり、補修といった側面のコストは、現段階ではかかっていない。ごみや草取りまでである。</p>
委員	<p>川の護岸を整備するときは、下流から実施すると説明があったが、例えば、</p>

	浸水しやすいような場所から整備することはしないのか。
担当者	浸水しやすい場所に土地があれば、調整池として整備して一時的に貯留することは可能であるが、その水もポンプで流していかなければならない。また、実際に浸水しやすい場所の道路の下や、近くの公共施設の下に調整池を整備している。浸水はなくなっていないが、以前よりは対策が進んでいる。
委員	浸水が発生しやすい場所は把握しているのか。
担当者	把握している。
委員	そこに対する対応はしているのか。
担当者	下水道部門で対応をしている状況である。また、下水道部門で、学校に雨水の貯留施設を整備している箇所もある。
委員長	まさに下水道と連携すべき部分であると思う。なお、本施策については、公園も関連するのではないか。
担当者	区画整理事業においては、公園の下に調整池を整備している箇所もある。公園担当においては、独自に調整池を作るという動きはない。
委員	○その他 親水という観点について、市として、最終的にどのようなもの、理想の姿をイメージしているのか。
担当者	漠然とした、感覚的なものであるが、河川の護岸工事を行い、その周辺には自然が残り、小動物がいるようなイメージである。なお、上戸田川上流部の公園整備では河川に降りられる親水機能を備えた整備を計画している。
委員	小動物とはどのようなものなのか。

担当者	イメージでは、虫とかカニとか、そのようなものである。
委員	本施策は、例えば国土強靱化に関する補助金や交付金があるかないかといった点や、市の管轄でない荒川が溢れたら危ないことなど、国の政策の影響を大いに受けられる内容である。国の動向について、担当としてはどのように考えているのか。
担当者	現在、上戸田川の整備は、国から1/3の補助をもらいながら事業を進めている。近年、特に今年は顕著であったが、降雨量が異常である。国も例えば、100mm/h降雨に対応するような計画対策を講じているようなので、この件については道路河川課としてだけではなく、市全体で検討していく必要があると考えている。
委員	国の補助を使って、そのような豪雨の対応をできるような施設を作る場合、戸田市のような限られた市域の中で、場所はあるのか。
担当者	土地に余剰がないため、例えば、広い道路、学校、公園の下など、現在ある公共施設に整備するしかない。しかし、荒川が決壊したら市域全域で4.0m程度浸水してしまうことから、逃げる対策というソフト面も重要である。
委員	仮に、市が下水道を100mm/hの豪雨に対応すると方向性を示した場合、それに係る予算はどのくらいになるのか。
担当者	今、具体的な金額はお示しできないが、現在国の補助金が50mm/h対応であるため、それ以上の性能で整備することに関しては、市単独費で行うこととなり、相当大きい予算規模となることが考えられる。
委員	施策として、河川の整備と下水道をセットにして、治水対策を行っていく考えはないのか。
担当者	この二つの観点は、切り離せない話である。今後検討していく。

委員長	<p>施策の指標としては、河川護岸の改修率のほうが適切であると思う。現状として、数字は出せるのか。</p>
担当者	<p>現在、上戸田川の整備率は56%であり、さくら川は41%となっている。新曽さくら川は終了しているので、全体としては、もう少し上の数値である。</p>
委員長	<p>指標として進捗率を示すときは、実数と割合を掲載したほうがいいと思う。</p>
委員	<p>戸田市には荒川が流れている。もし川の氾濫が発生した場合、荒川のほうが、上戸田川よりもインパクトというか、市全体においては、リスクが大きいものである。治水という観点では、この部分のほうが上戸田川よりも危険性が上回るものではないか。担当ではどのように考えているのか。</p>
担当者	<p>荒川の場合は、戸田市の降雨量に影響されるだけではなく、上流で豪雨が降れば、下流で決壊し浸水する可能性もあるので、本市としては、荒川の管轄である国との連携を取りながら、対策を考えるべきである。また、本施策は、荒川に及ばない小さな河川でも、浸水が発生するので、その治水対策を掲げている。</p>
委員	<p>本来は、市が管理している河川が3つあるという話なので、全てを含めて指標を示すべきであると思う。上戸田川に限る話ではないのではないか。</p>
担当者	<p>それぞれの川には流域が決まっていて、例えば上戸田地区であれば上戸田川であったり、西の方であれば笹目川であったりする。今想定しているところでは、雨が降った際の排水先が上戸田川なので、指標には上戸田川としている。</p>
委員	<p>戸田市は近隣の市町村と比べ、河川整備に係る費用が多いイメージがある。この点は、ある意味他市の市民に向けたアピールポイントになり得ると考えるが、実際に他市と比較するとどのようになっているのか。</p>

担当者	<p>現在、他市の予算措置を調べていないので、現段階で申し上げられないが、本市の第4次総合振興計画では、戸田市は「水と緑のまち」として水に重点を置いていることから、本市においては、河川の整備も力を入れていると言える。</p>
委員	<p>そのような観点があるのであれば、改修だけに力を入れるのではなく、親水に特化させて事業を進めてはどうか。それがシティセールスにもつながってくると思う。</p>
担当者	<p>確かに、親水に対しても担当として進めていきたいという思いはあるが、現在限られた予算の中で治水を優先して整備している。</p>
委員長	<p>市民の生命が関わってくる施策であることから、生命にかかわる部分の事業を先に実施するのが、一般的だと思う。</p>
委員	<p>生物多様性という観点から、高い評価を得ていると思うが、そこでのノウハウも本施策に生かせるのではないか。</p>
事務局	<p>例えば、戸田ヶ原の再生事業を行っている。そのほかにも、市民が親しめる水という事業を実施している現状があるので、その部分を、今後は分けて考えていくことも検討すべきと考える。なお、そのように考えると、様々な部局間にまたがる事業となり、河川だけに特化される話ではなくなる。さまざまな部局がまたがる複合的なものとなるので、今後の検討課題であると認識している。</p> <p>5 閉 会</p>